

令和8年度事業計画書

令和 8年 4月 1日から

令和 9年 3月31日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

令和8年度事業計画

I. 美術に関する展覧会、講演会等各種イベントの開催

(A) 展覧会

(a) コレクション展「虹のつくり方」 *2025年度から継続

会期 2026年3月14日ー9月6日

会場 原美術館 ARC ギャラリーA、B、C

「虹のつくり方」と題した本展では、1979～1990年の原美術館の活動にスポットを当てる。仮に「原美術館創成期」と名付けるこの時期は、日本における現代美術館の先駆けとして現代美術の普及を目指し、世界的な作家の個展開催のほか、日本の若手作家に発表の場を提供する意欲的なグループ展「ハラ アニュアル」を開催した。また、旧邸宅ならではの空間を活かした常設インスタレーション作品（ジャン=ピエール レイノー 《ゼロの空間》1980年、宮島達男《時の連鎖》1980年）が登場。このゼロから立ち上げられた美術館の開館当初の勢いを、現代美術に魅せられた創設者の原俊夫によって収集され続けている唯一無二のコレクションで迎える。現在の原美術館 ARC へと至る虹のような軌跡を映し出す、全3回の展覧会（毎年春夏季に開催予定）の第1回目。

出品作家

1. 会いに行く美術ー「私は作家に会いに行くことから始めた」（ギャラリーC）

カレル アペル、ナム ジュン パイク、工藤哲巳、李禹煥、トム ウェッセルマンなど

2. そこに行けば会える美術ー世界の今がここに（ギャラリーB）

クリスト、ピョートル コワルスキー、今井俊満、ジャン=ピエール レイノーなど

3. ハラ アニュアルの作家たちー若い作家に発表の場を（ギャラリーA）

遠藤利克、笠原恵実子、菊谷直美、小清水漸、柴田耕作、須田基揮、菅野由美子など

(b) 「安藤正子：普通の日々」 *2025年度から継続

会期 2026年3月14日ー9月6日

会場 原美術館 ARC 特別展示室 観海庵

内容

特別展示室 観海庵において、小企画「安藤正子：普通の日々」展を開催する。

小さな楽焼約150点によるインスタレーション《ニューノーマル》（2024年）を中心に、新作の油彩画を含む、近作の絵画や映像を和の設えの観海庵と呼応させ、小規模ながらも安藤の現在

地を観ることのできる機会とする。

原美術館（東京・品川）での鉛筆画と油彩画の個展「安藤正子ーおへその庭」（2012年）から早14年。かつての絵画表現に心理的な乖離が生じた時期に、陶のレリーフと格闘することで絵画的イメージを物理的に立ち上げるようになり、楽焼の作品『ニューノーマル』へと繋がっていった。楽焼の手法に現在の心境が合致し、手と土と火とで、花、りんご、子供の足、猫など、まるで絵画の虚構から現実へと取り出してきたかのような小さな陶の数々を作る安藤。地球上のここここで絶え間なく続く戦禍や災禍に心を痛めながらも、そのような「新しい日常」に負けまいと、赤々と燃える火や燻る煙の中にある何かに目を凝らし、光るかけらを探し出し、ひとつひとつ、ひとりひとりを瓦礫の中から救い出していく。

出品作家

安藤正子

(c) コレクション展「Fly to the Moon: 月をめぐる5つの物語」

会期 2026年9月12日（土）ー2027年1月11日（月・祝）

会場 原美術館 ARC（展示室：現代美術ギャラリーA、B、Cおよび特別展示室・観海庵）

内容

夜空に浮かぶひととき大きな天体、月。満ち欠けを繰り返しながらも、見上げればいつも規則正しくそこにあり、静かに夜道を照らしている。月は古今東西の国々で信仰の対象とされ、また、神話やおとぎ話、詩、歌や物語に登場するように、長きにわたって私たち人類の想像力をかきたててきた。本展は「月」をテーマにして作られた5つの作品を中心にその周辺の作品を約70点セレクトし、各展示室をめぐる構成を「月世界旅行」に見立て紹介する。

Episode 1 ロバート ラウシェンバーグ《ブースター》（1967年）とポップアート

Episode 2 野口里香《潜る人》（1995年）と日常に潜む光の痕跡

Episode 3 菅井汲《月》（1957年）と日本のアンフォルメル

Episode 4 倉俣史朗《How High the Moon》（1986年）と浮遊する家具

Episode 5 伝小栗宗湛「猿猴図」と花鳥風月の表現

出品作家（予定）

現代美術：ロバート ラウシェンバーグ、トム ウェッセルマン、アンディ ウォーホル、ロイ リキテンシュタイン、野口里香、荒木経惟、菅井汲、今井俊光、白髪一雄、倉俣史朗など

古美術：「武蔵野図屏風」、伝小栗宗湛「猿猴図」、狩野常信「月夜山水図」、狩野派「花鳥図

屏風」、月に梅蒔絵文箱など

(d) 「コレクション展」(仮題)

会期 2027年3月中旬-9月上旬

会場 原美術館 ARC (展示室: 現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵)

(B) 講演会等各種イベント

(1) 榎本浩子「やわらかな時間」6日間

(2) 安藤正子のスタジオ訪問(「安藤正子」展関連企画) 1日間

(3) Meet the Artist: 安藤正子による展覧会ガイド(「安藤正子」展関連企画) 2日間

(4) うちわづくりワークショップ(和紙を使った折り染め) 2日間

(5) うちわづくりワークショップ(大竹夏紀氏の指導、ろうけつ染め) 1日間

(6) 護国寺「月光殿」特別拝観ツアー(「Fly to the Moon」展関連企画) 1日間

(7) 夜間開館 観月会&建築ライトアップ(「Fly to the Moon」展関連企画) 1日間

(8) 屋外作品ガイドツアー(年間通して2回程度)

(9) 担当学芸員によるギャラリーガイド(メンバー向け、一般向け、団体向け等)

(10) 開架式収蔵庫ツアーガイド(メンバー向け、一般向け、団体向け等)

(11) 学校の先生を対象とした無料鑑賞日 6日間

(12) アートを使った手話通訳実習(群馬大学との共催授業)【予定】

(13) Meet the Artist: 奈良美智【予定】

II. 現代美術に関する国際交流

(A) 当館への招聘 予定なし

(B) 海外への派遣 予定なし

III. メンバーシップに関する活動

メンバーシッププログラムは、法人賛助会員、個人賛助会員、ならびにフレンズ(一般会員)を対象とし、精神的・経済的支援を目的として運営している。特典として実施している「メンバー限定開架式収蔵庫ツアー」(毎月第一土曜日開催)では、通常非公開の開架式収蔵庫を特別に見学できるほか、ギャラリーガイドや屋外作品の解説など、多様な内容を通じて美術館およびコレクションへの理解を深める機会を提供している。

令和7年度には、訪問型イベント「Art in Town: UESHIMA MUSEUM」「Art in Town: 国立新美術館」の実施に加え、賛助会員および寄付者限定イベントとして、所蔵作家である加藤泉氏の

スタジオビジットおよび加藤泉氏、青野館長を囲んでのランチ会を開催し、参加者から高い評価を得た。

令和 8 年度も引き続き同様のイベントを継続し、当館ならではの特別な体験を提供する予定である。これらの取り組みを通じて、美術館の活動を支援する会員に対し、知的好奇心や精神的充足感を満たす機会を創出し、今後は特に個人賛助会員の増加を目指したい。

IV. 所蔵作品の貸し出し

(1) 貸出先：兵庫県立美術館

期間：2026 年 2 月中旬から 5 月中旬

理由：「アンチ・アクション」展（2026 年 2 月 28 日から 5 月 6 日）への貸し出しのため

※3 館巡回の 3 会場目

作家名：宮脇愛子

作品名：《無題》（1964 年）

(2) 貸出先：東京都江戸東京博物館

期間：2026 年 11 月中旬から 2027 年 1 月下旬

理由：「円山応挙」展（2026 年 11 月 28 日から 2027 年 1 月 24 日）への貸し出しのため

※2 館巡回の 1 会場目

①作家名：円山応挙

作品名：《淀川両岸図巻》（本図）（江戸時代）

②作家名：円山応挙

作品名：《淀川両岸図巻》（下図）（江戸時代）

(3) 貸出先：東京国立博物館

期間：2026 年 12 月から 2027 年 4 月頃

理由：特別展「源氏物語 王朝のかがやき」展（2027 年 1 月 19 日から 3 月 14 日）への貸し出しのため

※2 館巡回の 2 会場目

作家名：不詳

作品名：重要文化財《縄暖簾図屏風》（江戸時代）※東京国立博物館寄託品

(4) 貸出先：大阪市美術館

期間：2027 年 1 月中下旬から 4 月中旬

理由：「円山応挙」展（2027年2月6日から4月4日）への貸し出しのため

※2館巡回の2会場目

①作家名：円山応挙

作品名：《淀川両岸図巻》（本図）（江戸時代）

②作家名：円山応挙

作品名：《淀川両岸図巻》（下図）（江戸時代）

V. 所蔵作品の画像の貸し出し

作家のレゾネや図工・美術の教科書、副読本や装丁本、あるいは研究者の論文等、要請に応じて画像の貸し出しを行う。

VI. 美術に関する情報の収集と発信

原美術館 ARC 公式ホームページ、X（旧ツイッター）やインスタグラムを活用し、より端的かつ速やかなる情報の発信を目指す。同時に、引き続き国内外の美術情報を収集し、その整理に努め、レファレンスにも迅速に対応してゆき、美術館としての使命を果たす。

VII. 美術作家に対する援助

芸術活動推進の為の種々の便宜供与を提供する。

VIII. ラーニングプログラムに関する活動

事例の調査収集に努め、また、学校現場との連携や、自治体、青少年団体、企業団体等からの要請を受け、広い世代を対象とする生涯教育を目的とした各種ラーニングプログラムの充実強化を図る。

IX. 作品修復・保存

<現代美術>

オラファー エリアソン 《Sunspace for Shibukawa》ほかの修復作業を行う。

X. 所蔵作品をはじめとする資料のデジタル化およびデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

2023年、約70年振りに改定された改定博物館法では、同法第3条第1項に定める博物館の事業に、第3号として「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」が追加された。

改定博物館法の交付通知では、「デジタル技術を活用した博物館資料のデジタルアーカイブ化とその管理及びインターネットを通じたデジタルアーカイブの公開、インターネットを通じた情報提供と教育や広報、交流活動の実施や展示・鑑賞体験の提供のために資料をデジタル化する取り組みを含むこと」と明記されている。これに沿うための、当館独自の基本方針の策定と実践の取り組みを行う。

- ① 資料に係る情報の保存と体系化、業務効率化の推進
- ② 調査研究の成果を含めた資料の公共化への対応
- ③ 学校教育・生涯学習のほか、地域の活力の向上など多様な創造的活動への資料活用への対応